

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
社会理論と社会システム Social Theory and Social System		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得 必修 社会福祉主事任用資格に係る科目)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大熊信成	福祉棟3F	火・水・木・金の9時から16時（授業 時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
人間科学の一つとして、社会学の基礎的知識を修得する。そのために基礎的な社会学説を取り上げ、歴史的な社会学の理解を深める。その上で現代社会や社会問題の特質、人と社会の関係性、生活の特徴等について学ぶ。				
授業の目標				
① 社会理論による現代社会の捉え方を説明できるようにする。 ② 生活について説明できるようにする。 ③ 人と社会の関係について説明できるようにする。 ④ 社会問題について説明できるようにする。				
授業の方法				
基本的に講義形式で行う。必要に応じて小テストを実施するとともに社会福祉国家試験対策も行う。				
学習の成果（学習成果）				
①現代社会を捉え、現代社会を論じることができ、人々の様々な生活について説明できる。 ②人と社会の関係について明確に述べることができ、現代社会における様々な社会病理現象について列挙できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業のねらいと進め方、成績評価について等の説明）			
第2回目	社会学の歴史的展開 その生成と展開①			
第3回目	社会学の歴史的展開 その生成と展開②			
第4回目	社会システム概念 システム理論とは			
第5回目	日常生活と相互行為 行為と何か			
第6回目	社会的行為と他者理解			

第7回目	社会生活と社会集団 レポート「集団とは」提出は第8回の授業日	
第8回目	社会集団類型	
第9回目	現代家族の変容とその課題	
第10回目	法と社会システム・経済と社会システム	
第11回目	組織と官僚制・社会構成・生活構造	
第12回目	ジェンダーについて	
第13回目	都市化と地域社会・人口構造と問題・情報と国際化	
第14回目	社会政策・社会計画・社会福祉	
第15回目	社会問題と社会学 ～現代社会の在り方について考える～	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。
レポート	20%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書		
小テスト	10%	授業において小テストやリアクションペーパーを行う。学びの振り返りができる。求められたテーマについて自分の考えが明確に示されている。
試験	60%	論述、選択記述式の試験を行い評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。
発表内容 (態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
『社会理論と社会システム』弘文堂 他 授業中に指示し、資料を配布します。		
履修上の留意点・ルール		
社会福祉士国家試験受験資格取得の為に必修科目である。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。		